

式辞

この逆瀬台にも春の息吹がほのかに感じられる今日この頃、兵庫県立宝塚高等学校第五十四回卒業証書授与式が挙行できますこと、教職員一同、心よりうれしく思っております。卒業生の皆様には、心からお祝い申しあげます。

また、今日(きょう)の良き日を迎えるにあたり、お子様を陰になり日向になり支えていただきました保護者の皆様には、お喜びも一入(ひとしお)のこととご拝察申しあげます。お子様のご卒業、誠におめでとうございます。

また、本卒業式を挙行するにあたり、ご臨席を賜りましたご来賓の皆様には、公私ご多忙の中、ご来校いただき誠にありがとうございます。この場をお借り致しまして、厚く御礼申しあげます。

さて、卒業生の皆さん、本日の卒業式を迎えられた今の心境はいかがででしょうか。この三年間の思い出が、走馬灯のように頭の中を巡っていることと思います。第一学年に実施した四月のオリエンテーション合宿が昨日のことのように思い出されているところではないでしょうか。約二十キロのお遍路コースはいかがでしたか。高校生活の始まりでしたね。あつという間の三年間だったと思います。この卒業は、皆さんが自らの手で成し遂げた、人生の中での一つの節目と言っても過言ではありません。このことには、自信と誇りを持ってください。

しかし、一方で、共に学び支えあった友人(ゆうじん)がいて、さらに皆さんを守り育ててくれた保護者の方々をはじめ、教え導いていただいた先生方、さらには、お世話になった多くの方々への支えがあったことを忘れてはなりません。これらの方々への感謝の気持ちを忘れずに、これからの人生を力強く歩んでほしいと思います。

宝塚高校は五十六年の歴史と伝統があります。昭和三十八年に宝塚市民待望の県立高校として誕生しました。この歴史と伝統のある学び舎で一万八千名を超える多くの先輩たちが過ごされました。現在も各界で活躍されています。卒業生の皆さんも、本校での三年間をこれからの人生の糧(かて)にしていただけなら幸いです。振り返ったときに、「あの三年間は、かけがえのない時間だった。」と思える時がきつとあります。そんな時には、県宝を思い出してください。

「県宝から未来へ」夢に向かって羽ばたこう！という教育理念のもと、校訓の「剛健中正」、「誠意正心」、「明朗闊達」の精神で、いつも明るく元気で強い心をもち、精進してほしいと思います。

皆さんは、入学時の頃とは、比較にならないほど身も心も大きく成長しました。頼もしい限りであります。

ところで、ここ最近、国内においては、景気は良くないと言われながら、実は平成初期のバブル時代に劣らない好景気であると聞きます。その要因の一つとして、様々な業界が、過去の経験を教訓に、企業努力をしてきたことではないかと思えます。また、嬉しいニュースとして、本庶佑（ほんじよたすく）先生のノーベル医学生理学受賞、「はやぶさ2」の小惑星「りゅうぐう」への着陸と次のミッションへの挑戦などがありました。辛いニュースとしては、熊本や北海道での大地震、西日本豪雨など甚大な被害をもたらしたことです。犠牲になられた方々のご冥福をお祈り致します。

先行（さきゆ）きの読めない世界の政治や経済の状況とは裏腹に、目まぐるしい進化を遂（と）げているIT技術によるIT産業があります。この進化のスピードに、本当に我々人類が追いついて行けるのかなと、妙な錯覚に陥ってしまいそうでもあります。人工知能AIを作った人類がAIに追い越されてしまうのも時間の問題かなと思ってしまう。

卒業生の皆さん。未来の日本のみなならず、世界の平和や発展に大きな力を発揮できるのは、これから社会に巣立っていく皆さんであります。皆さんの若い力には、無限の可能性が秘められています。是非、広い視野を持って世の中を見渡し、世界で活躍する人になってほしいと思います。私は、まさにこれが皆さんの次のステージだと思っております。最後に卒業生の皆さんに送る言葉として三つ伝えたい。

一、（一つは、）何事にも恐れずにチャレンジです。
一、（二つ目は、）思いやりの心と感謝の気持ちを忘れずに。
そして

一、（三つ目は、）誠実に生きてください。
これらの三つを覚えておいてほしい。

健康には十分留意され人生をたくましく生きていってください。

本日ご臨席を賜りました保護者の皆様、ご来賓の皆様、五十四回生は、今日（きょう）こうして卒業式を迎えましたが、まだまだ未熟でございます。

これからもどうか温かいまなざしで見守っていただきたいと思えます。今日（きょう）、本校を巣立ちますが、引き続き本校に対しまして皆様方の多大なるご支援をお願い致しまして、卒業式にあたってのお祝いの言葉と致します。

平成三十一年二月二十八日

兵庫県立宝塚高等学校長

中西 朗